

2014年（平成26年） 10月 693号

2016年青年の集い

アダム・クジャク

バチカンが主催し、2～3年ごとに世界各地でワールドユースデー（WYD）という世界大会が行われています。これは国連が1985年を「世界青年の年」と定めたことを受け、前年1984年「あがないの特別聖年」の閉会ミサで、教皇ヨハネ・パウロ二世が、青年たちにローマへと集うように呼びかけたことにはじまります。「世界青年の日」がひとつの信仰を持つ青年たちが世界中から集い、出会いを喜ぶ祭典としての要素だけではなく、回心に始まり、キリストの受難と復活の神秘を祝う巡礼の旅でもあるのです。

2016年の夏に、ポーランドでこの大会が開かれます。今回で2度目です。前回1991年の8月10日から5日間、私は司祭に叙階されて間もなくでしたが、大会のスタッフに加わりました。総勢160万人の参加者で、ミサの会場になったチェンストホヴァのマリア様の修道院のグランドどころか町全体が、世界中からの信者であふれていたことを思い出します。

今月は開催予定の都市クラクフ（**Kraków**）について紹介したいと思います。クラクフは、ポーランド南部にある都市で、ポーランドで最も歴史ある街の一つで、日本の京都のように都とされ、17世紀初頭にワルシャワに遷都するまではクラクフがポーランド王国の首都でした。クラクフはポーランド文化の中心地でもあります。また第二次世界大戦であまり被害を受けなかったこともあり、世界遺産に登録されている旧市街には、歴史的な建造物が多く残っています。なかでも旧王宮であるヴァヴェル城や聖マリア教会、中央広場（織物会館）などは有名で、観光客にも人気があります。

ヴァヴェル城は、ポーランドにとって特別な場所であり、過去の栄光と旧共和国の力を象徴するものといえます。趣のある王宮は、16世紀初頭にルネッサンス様式で建てられました。数多くの所蔵品の中で最も貴重なのは、ルネッサンス朝のブリュッセルの織物工房で造られたタペストリーのコレクションです。ヴァヴェル城の中にあるカトリック大聖堂は、1020年に着工が始まりました。その後、歴代の王様の戴冠式が行われたり、歴代の国王を始め歴史的英雄が埋葬されています。聖マリア教会は13世紀終わりから15世紀の初めにかけて建てられました。ポーランドを代表するゴシック建築です。正面は二つの立派な塔で飾られています。塔の高さは81メートルと69メートルです。高いほうの塔では14世紀以来、毎日1時間ごとにラッパが吹かれています。中世、タタール軍の襲撃に逢った際、ラッパ吹きが危険を市民に知らせるためラッパ

を吹いている最中に矢で射殺されたという言い伝えがあり、今でもそれになら
って塔の上から、1時間おきにラッパが吹き鳴らされますが、演奏が突如途切
れます。御聖堂の祭壇はヴィット・ストウォシ祭壇と言って1477年～14
89年の間にクラクフの小市民の基金で作られました。ヨーロッパの名作と
言われています。主な材料は櫟の木です。戸棚のような形で出来ていて、扉の
部分は4つからなっています。その二つは動かないで、開いている扉にはマリ
ア様のお告げから聖霊降臨までの喜びがあり、中央部には使徒に囲まれている
マリア様の眠りが見えます。上の部分には聖ヴォィチェフと聖スタニスラフに
付きそわれて、被昇天と戴冠式を描写しています。

扉を閉めると聖マリアの12の苦しみの場面が彫られています。

興味のある方は是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。そして青年の皆さん
もしくは、息子さんや娘さん、お孫さん方にこの大会に参加なさるようにおす
めください。



ヴァヴェル城



ヴィット・ストウォシ祭壇



クラクフの広場



聖マリア教会